

## 《ファルスタッフ》 ～ヴェルディ最後のオペラ

日時：2013年3月30日(土) 18:00 開演 会場：上野学園 石橋メモリアルホール

### ●ヴェルディ：歌劇《ファルスタッフ》 あらすじ

かつては数々の武勇伝を残し、優男を自称する老騎士ファルスタッフは、大酒飲みの好色漢。その日もガーター亭で飲んだくれ、勘定が払えない彼は、従者カストラとパンドルフォにフォード夫人アリーチェとペイジ夫人メグに恋文を届けさせようとするが固辞され、「名誉だと！ この悪党め！」とモノローグを歌う(第1幕第1場)。

フォード邸の庭。アリーチェとメグは、ファルスタッフから届けられた同じ文面の恋文を見せ合い、クイックリー夫人とアリーチェの娘ナンネッタとともに、好色漢をこらしめようと計画する。次いでフォード、医師カイウス(フォードはナンネッタをカイウスに嫁がせるつもりでいる)、2人の従者、フェントン(ナンネッタの恋人)が登場、カストラとパンドルフォは、アリーチェに恋文が届けられたとフォードに告げる。ナンネッタとフェントンの愛の二重唱「燃える唇」に、女たちと男たちの八重唱(第1幕第2場)が続く。

ガーター亭で飲んだくれるファルスタッフにクイックリー夫人が、アリーチェの逢引きの誘いを伝える。有頂天の彼は自分を鼓舞する(「さあ行け、ジョン!」)。変装したフォードがアリーチェへの想いを語ると、ファルスタッフは彼女と逢引きする話を聞かせる。フォードは嫉妬に駆られ、「夢かまことか」と歌う(第2幕第1場)。

フォード家の居間。ファルスタッフが誘いに乗ったことを確認すると、女たちは作戦を開始。ファルスタッフが「ノフォーク侯の小姓のころ」と自画自賛してアリーチェを口説きにかかるころへ、フォードが男一同を連れて乱入し、舞台は大騒ぎ。女たちはファルスタッフを洗濯籠のなかに隠し、窓からテムズ川に投げ捨てさせる(第2幕第2場)。

ファルスタッフはガーター亭の前で「なんとという世の中だ」と不満を語っていると、再びクイックリー夫人が登場。アリーチェが先の災難を悲しみ、公園の榎の木の下で逢いたがっていると告げ、一同は仮装芝居の段取りをつける(第3幕第1場)。

ウィンザー公園。フェントンが「燃える唇から恋の歌が」を歌い、ナンネッタが応える。アリーチェはフォードの裏をかこうと、フェントンにカイウスと同じ修道衣を着せる。全員が準備を終えたところでファルスタッフは彼女を口説きにかかる、メグが「悪魔が来た」と叫ぶ。公園の榎の木の下に現れる妖精を見ると死ぬ、という言い伝えがあるのだ。妖精の女王姿のナンネッタを見て、ファルスタッフは榎の木の下でうずくまる。ナンネッタが妖精の歌「季節風の息の乗って」を歌い、一同がファルスタッフを小突きまわすと、ファルスタッフは悲鳴を上げ泣きだしてしまう。と、パンドルフォが頭巾を外してしまったので、ファルスタッフははめられていたことに気づき、傲慢さを取り戻す。フォードは変装したナンネッタとカイウスを結婚させようとするが、アリーチェの機転でフォードの計画も失敗に終わり、ナンネッタとフェントンは祝福される。ファルスタッフは「この世はすべて道化」と歌い、一同も唱和する。